

令和7年度

東京都保健所市町村在宅療養体制整備支援事業に関する多摩立川保健所の取組

1 地域ケアネットワークの構築（広域的、専門的分野）

(1) 市主催の在宅療養に関わる協議会等への参加

| 市 | 会議名 |
|-------|------------------|
| 立川市 | 在宅医療・介護連携推進協議会 |
| 昭島市 | 地域ケア推進会議 |
| 国分寺市 | 地域ケア会議 医療・介護連携部会 |
| 国立市 | 在宅療養推進連絡協議会 |
| 東大和市 | 地域包括ケア推進会議 |
| 武蔵村山市 | 在宅医療・介護連携推進協議会 |

(2) 北多摩西部保健医療圏脳卒中医療連携推進協議会

- ① 脳卒中医療連携推進協議会急性期部会
 - ・部会の開催 令和7年11月12日開催
 - ・救急隊と協力した講習会を開催（令和8年2月28日 立川病院）
- ② 脳卒中医療連携推進協議会地域ケア・リハビリ部会
 - ・部会の開催 令和7年11月17日開催
 - ・住民向け公開講座の開催（令和8年2月28日 立川病院）
（急性期部会、地域ケア・リハビリ部会合同で市民向け講座を開催）
- ③ 医療連携推進協議会（令和8年3月開催予定）

(3) 摂食嚥下機能支援事業

市、病院、医師会、歯科医師会等と協力の下、在宅等における摂食嚥下機能支援のためのシステムを発展させていくための検討を行うとともに、普及啓発を実施している。

- ① シンポジウム（令和8年1月15日（木）実施）
 - ・テーマ：「おいしく楽しい在宅食支援」～笑顔あふれる多職種の地域連携～
- ② 摂食嚥下機能支援研修会（乳幼児期及び障害児対象）（令和7年5月23日（金）実施）
 - ・テーマ：子どもの口とケガ ～知っておきたい基本と応急処置～
- ③ 摂食嚥下機能支援事例検討会（令和7年12月4日（木）実施）
 - ・テーマ：脳血管疾患後の摂食嚥下機能支援 ～地域で食べるを支えるために～

(4) 地域の在宅療養体制の課題整理と解決に向けた取組の推進

① 地域精神保健医療福祉連携会議

令和7年12月22日、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築の推進に向けて～キーパーソンのいない本人の危機的状況をどのようにチームで支えていくか～」をテーマに実施した。参加者は、圏域6市の障害福祉主管課職員および重層的支援体制整備事業関連部署、生活困窮者支援関連部署、連携している精神科病院。病状により本人の意思決定能力が低下している中で、キーパーソンが不在かつ支援者を拒否し、本人の生活や生命が深刻な危機に陥っている模擬事例をもと各委員から現状と課題、連携について話し合った。当事者支援の困りごととして、

「介入が難しく安否確認が困難。」関係機関との連携の難しさとしては、「どの機関がどこまで支援するのが難しい。」「負担が一部署に偏りやすい。」「身体面・精神面を複合的に診てもらえる病院を探すのに苦慮する。」などの声が上がった。引き続き、日頃の個別事例を通じた連携や本会議により、今後の精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築の推進につなげていく。

② 難病対策地域協議会

令和8年1月22日、圏域6市の障害福祉主管課、地区医師会（北多摩、立川市、国分寺市）、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、居宅介護事業所、患者・家族会等と難病対策について検討した。今年度の議題を「若年の在宅神経難病患者の現状と課題」とし、保健所保健師の個別支援活動から見えてきた療養の現状と課題を報告し、各委員から現場で感じている課題について共有した。若年の在宅神経難病患者の課題として、「障害受容の難しさ」、「生きがいの喪失・孤立感が強い」、「子育てへの影響」、「経済的負担が大きい」、「介護者の負担（ヤングケアラーを含む）」、「既存のサービスが本人家族のニーズと合いにくい」、「障害福祉サービスと介護保険サービスへ切り替え時の課題」等の報告があった。多くの課題に対応するために、地域の関係機関で一層の連携が必要であることを確認した。

③ 療養支援計画策定・評価委員会

在宅難病患者に対し、専門医療機関や地域の医療機関、市保健福祉部署等との連携を図り、個々の患者に応じた療養環境の整備、各種サービスの適切な提供等を目指し、在宅難病患者療養支援計画策定・評価会議を開催して支援方針の共有化を図っている。年間7回開催した。

④ 療育相談事業

令和7年11月13日、昭島市の後援を受け、管内6市に在住の未就学の医療的ケア児や重症心身障害児等とその保護者を対象に、「就学前の子育てのいろいろ みんなで話してみませんか ～子育て、医療的ケア、兄弟姉妹のこと、いろいろ～」をテーマに交流会を開催した。保護者同士が交流を通して気持ちの共有ができた。また、市と連携することで、課題の共有や継続した個別支援活動につながった。

(5) 在宅療養を支える関係機関相互の連携体制の構築

① 保健師による個別支援活動（随時）を通じた連携の推進

※感染症対策担当の取組（結核患者の服薬支援等）も含む。

② 各市の災害時個別支援計画作成への支援

③ 圏域6市の関係者も参加して、薬物事例検討会、困難事例検討会、法律問題事例検討会等を開催

2 地域保健医療人材の育成

在宅療養に関する講演会の開催（地域関係者向け）

令和7年8月29日、「お酒の課題を抱える方の気持ちと対応を学ぶ～身近な支援者ができること～」をテーマに開催し、アルコール依存症やその可能性がある住民に関わる支援者53名が参加した。内容は、当事者に自身の経験を話していただいた後、公認心理士・精神保健福祉士である講師がアルコール依存症の基礎知識とコミュニケーションの方法についての講義を行った。

3 その他

東京都地域医療構想調整会議 「在宅療養ワーキンググループ（北多摩西部）」への参加 （令和7年12月9日）

東京都地域医療構想の構想区域ごとに設置された「東京都地域医療構想調整会議」の「在宅療養ワーキンググループ」は、東京都福祉保健局医療政策部によって運営され、医療、介護、保険者、行政等の代表等から構成されている。

今年度は、昨年度同様にWEB形式で開催され、「これまでの振り返りと2040年に向けた取組の方向性」をテーマに、区市町村ごとの地域状況に関する意見交換等を行った。